

「てんかん」を正しく理解するために



「てんかん」 って、な～に？

■ 監 修 ■

京都大学大学院医学研究科てんかん・運動異常生理学講座 特定教授
池田 昭夫 先生

■ 執筆協力 ■

京都大学大学院医学研究科臨床神経学（神経内科）特定病院助教
小林 勝哉 先生

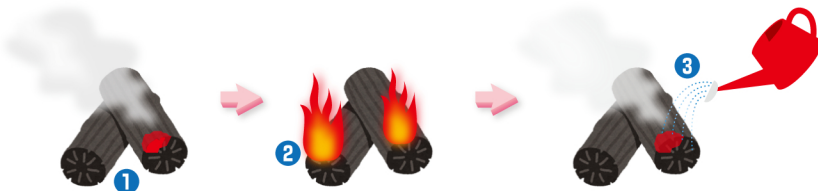
てんかんってどんな病気？

■ てんかんは誰でもかかる脳の病気です

てんかんは子供から思春期にかけての病気と思われがちですが、実は乳児からお年寄りまで誰でもかかる「発作」を繰り返す脳の病気で、人口の約1%の方にみられます。てんかんというと、意識を失い転倒するとか、激しいけいれんなどの発作を思い浮かべるかもしれませんが、一瞬ぼんやりするようなことがてんかん発作の場合もあります。このようにてんかんという病気は、発作の現れ方も多彩で、原因も一つではないのです。

■ 「燃える炭」で、てんかんを考えてみましょう

何かの原因で火がつくと、炭は赤くなり火力を増します（**①てんかん焦点**）。さらに強く燃えると、炎を出して燃え上がります（**②大発作**）。激しく燃え上がっている炎に水（**③抗てんかん薬**）をかけて一次的に消すことができますが（**発作時・急性期の抗てんかん薬治療**）、炭の内部の火種は完全には消えていません。そのままにしておくと再び発火して激しく炎を出して燃え上がります。火種を完全に消すためには、火種の大きさに見合う水（適切な種類と量）の抗てんかん薬を丁寧にかけていくことが必要です（**慢性期の治療**）。



池田昭夫 編著：症例から学ぶ戦略的てんかん診断・治療 .2014 より改変引用

■ てんかんの治療は「燃える炭」を消すことです

燃えた炭に少量の水（**④抗てんかん薬治療**）をかけ続ける期間は、一定期間（**最低2年間**）必要ですが、途中で水をかけるのを止めたり（**怠薬**）、風が吹いたり湿度が低くなったりして燃えやすくなると（**過労・睡眠不足**）、途中で火種が再び燃え上がることがあります。一定期間にわたって水をかけ続け、医師が火種が消えたのを確認（**脳波検査**）したら、水をかけるのを徐々に減らして（**⑤抗てんかん薬の減量**）、最後には中止（**断薬**）することも可能かもしれません。



池田昭夫 編著：症例から学ぶ戦略的てんかん診断・治療 .2014 より改変引用

発作について知っておこう

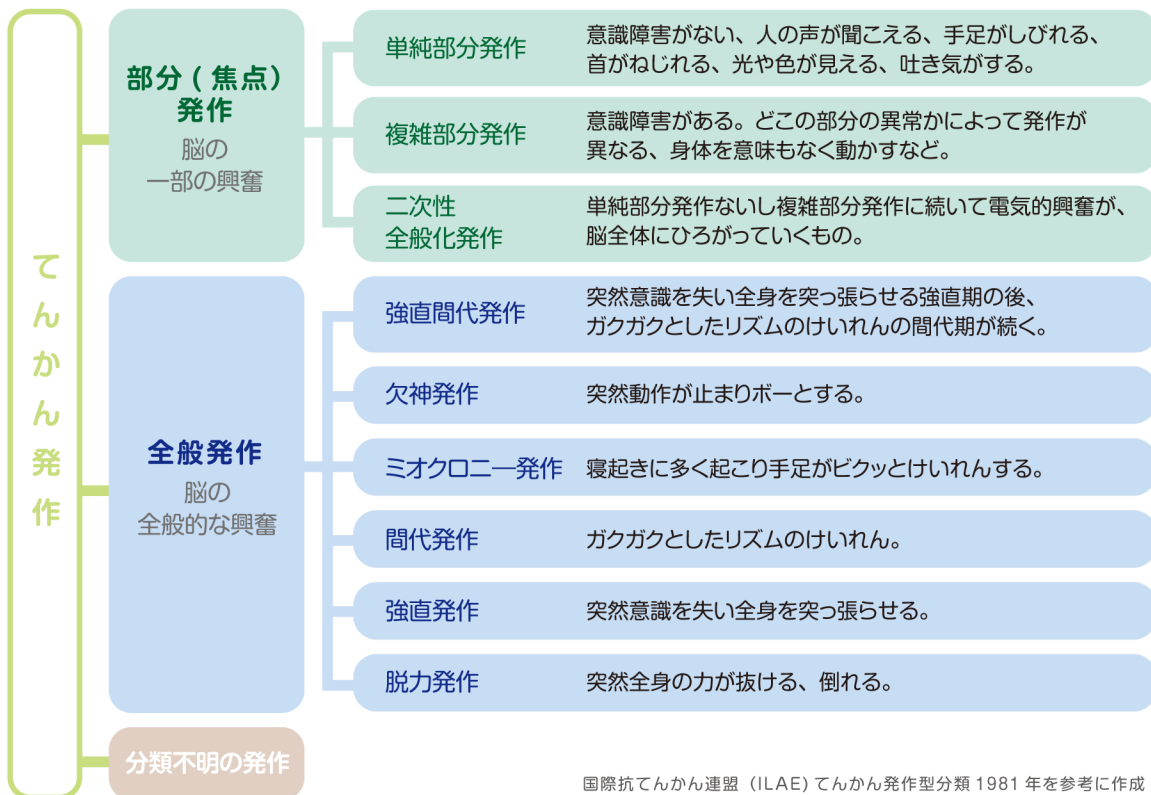
発作は大きく「部分発作」と「全般発作」に分けられます。

部分発作は、脳の一部（焦点）から異常な放電が起こり、意識を失わない「単純部分発作」と、意識を失ったり記憶障害を伴う「複雑部分発作」、そしてそれらが脳全体に広がっていく「二次性全般化発作」があります。単純部分発作は患者さんの意識がはっきりしているため、発作中、どんな症状があったか覚えています。複雑部分発作は意識が遠のくため、患者さんは発作中のことを覚えていません。

一方、「全般発作」は脳全体に異常な放電が起こるもので、多くの場合本人は発作のことを覚えていません。

部分発作

全般発作



てんかんの分類を知っておこう

てんかんは原因の有無と発作の起こり方の 2 つの点から分類できます。原因からは、脳に障害や傷などがありその異常から起こる「症候性てんかん」と、体質や遺伝以外には脳には異常が認められないのに発作が起こる「特発性てんかん」に大きく分けられます。また、発作からは、部分発作から始まる「部分てんかん(局在関連てんかん)」と、はじめから脳全体の全般発作が起こる「全般てんかん」に分けることができます。

てんかんの分類

発作の起こり方	部分てんかん	全般てんかん
原因の有無	脳のある部分が問題となる (局在関連てんかん)	脳全体が問題となる
特発性てんかん 脳にはっきりした 障害が認められない	特発性部分てんかん 小児期の一部のてんかん 脳波異常を示すが、 成長とともに治るものが多い	特発性全般てんかん 多くは思春期前後の発症で 欠伸発作、ミオクローニー発作、 強直間代発作などを起こす。
症候性てんかん 脳に障害や傷がある	症候性部分てんかん 脳のどこに異常があるかにより 症状が異なる (側頭葉てんかん、後頭葉てんかん、 前頭葉てんかん、頭頂葉てんかん)	症候性全般てんかん ウエスト症候群 レノックス・ガストー症候群 脳炎後てんかんなど



池田昭夫 編著：症例から学ぶ戦略的てんかん診断・治療、中里信和監修：「てんかん」のことがよくわかる本、日本てんかん学会：てんかん診断・治療ガイドライン、日本神経学会：てんかん治療ガイドライン 2010。を参考に作成

COLUMN 高齢者のてんかん

高齢化に伴いお年寄りのてんかんが増加して注目を集めています。脳出血や脳梗塞などの脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷などの既往歴のある方だけでなく、認知症や一見正常の高齢者でも起こります。発作が起こると一時的にぼんやりしたり記憶が飛んだり上の空だったりするので、認知症と間違えることがあります。「年のせい」とか「ボケたのではないか」とされ、きちんと診断・治療を受けていない場合がありますので、お年寄りの方にこのような症状があったら、てんかんを疑って専門医の診断を受けるようにしてください。



てんかんの診断は問診がとても大事

■ てんかんの診断には発作についての情報が役立つ

てんかんの診断でもっとも大切なのは問診です。発作が起こった状況をできるだけ正確に把握することが、診断とその後の薬物選択を含む治療に重要だからです。診察時にはあらかじめ情報（下記：診察時に役立つ情報）を整理して持参し、家族や近くで生活を共にしている人ができるだけ付き添うようにしましょう。

■ 診察時に役立つ情報

発作が起きた状況—いつ、どこで、何をしていたか、どのくらいの間続いたか、体調はどうだったか、いつもと違う様子（前兆）はあったか、はじめての発作か。

発作時の意識状態—意識はあったか、なかったか、ぼんやりしていなかったか、発作が終わってから発作のことを覚えていたか、発作が終わってから元に戻るまでどのくらいの時間がかかったか。

けいれんなどの状態—けいれんはあったか、どんなけいれんだったか、その他の症状はあったか、どのくらい続いたか。

その他—てんかんをもつ家族はいるか、熱を出したときにけいれんを起こしたことがあったか（熱性けいれん）。

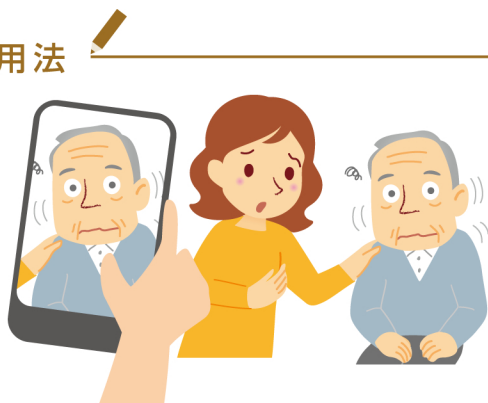
てんかんの診断に必要な検査：脳波検査

脳波の検査は脳の神経細胞の動きを調べるために必要です。起きているときと眠っているときの両方の脳波検査を行います。

その他診断に用いられる検査：画像検査（CT検査、MRI検査、SPECT検査、PET検査）、ビデオ脳波検査、血液検査

C O L U M N 発作時のスマホ活用法

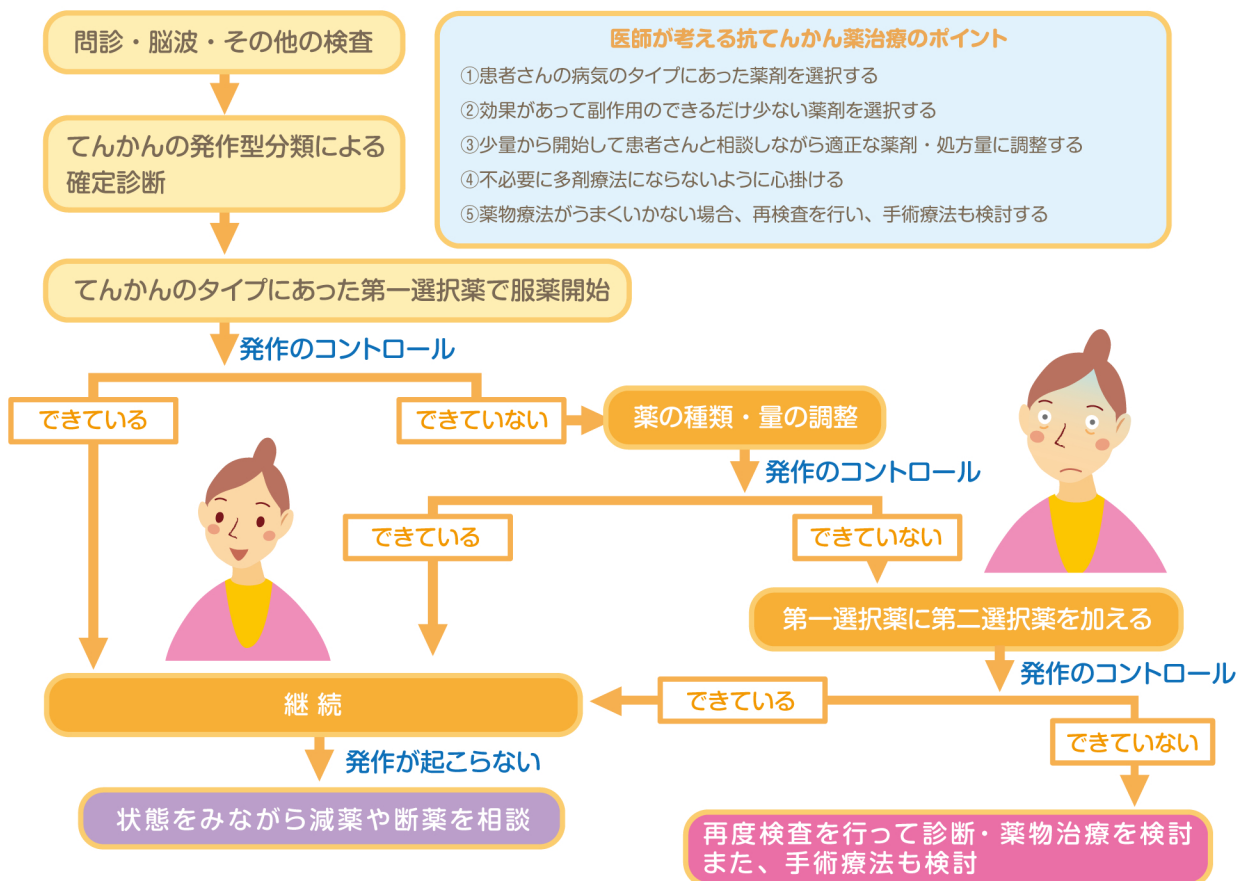
主治医にとって発作の状態を知ることは診断・治療に大変役立ちます。発作中、本人はよく覚えていないことが多いので、家族や周りの方は本人の安全に十分配慮しつつ、スマートフォンや携帯電話で動画を撮り、診察の時に主治医に見せるとよいでしょう。



てんかんの治療の基本は薬物療法です

■ てんかんの治療

てんかんの治療には薬物療法と手術療法がありますが、患者さんのタイプにあった抗てんかん薬を使用して、脳の異常な電気刺激をコントロールし発作を抑えるようにする薬物療法が中心です。抗てんかん薬の効果と副作用を考えて、主治医はそれぞれの患者さんにあった種類・量を処方していますから、きちんと飲むようにしましょう。大切なのは自分で判断して量を調整したり飲むのをやめてしまったりしないことです。



池田昭夫 編著：症例から学ぶ戦略的てんかん診断・治療、中里信和監修：「てんかん」のことがよくわかる本、日本てんかん学会：てんかん診断・治療ガイドライン、日本神経学会：てんかん治療ガイドライン 2010。を参考に作成

■ 起こりやすい抗てんかん薬の副作用

あらかじめ起こりやすい副作用を知っておくことが大切です。特に薬を飲み始めた時、薬の種類や量を変えたときに起こりやすいので、以下のようなことがあったら主治医や薬剤師に相談しましょう。自分で調整したり薬を飲むのをやめたりしてはいけません。

発疹

吐き気

眠気

ふらつき

頭が重い

抑うつ

イライラ

体重の増減

初期

慢性期

てんかんとうまく付き合う

■ 生活を楽しみましょう

てんかんがあるからと言って一律で過度な制限はありません。健康に注意している人が心掛けていることと同じように、次の点に気をつけて生活を楽しみましょう。まずは、生活のリズムを崩さないこと、疲れすぎないようにすることが大切です。徹夜も避け睡眠をしっかりととり、大量のアルコールの摂取は控えましょう。そして何よりも大切なのは、薬の飲み忘れをしないことです。またいくら調子がいいと言っても、主治医に相談する前に薬を減らしたり飲むのを止めたりするのは危険です。



生活のリズムを崩さないように気をつける

■ 発作が続いていたなら

日中に発作がみられるようであれば、身近な人たちに「てんかん」をもっていることを伝えておきましょう。「てんかん」という病気がどのようなものなのか、また自分のてんかんの特徴を理解してもらい、発作が起きたときにどのようにしてほしいかを日頃から話しておくとう安心です。

なお、発作が続いているときには、特に、事故の防止に努めましょう。具体的には、高いところへ登らない、ホームの端は歩かない、お風呂に入るときには誰かに声をかける・鍵をかけない、一人で入浴する時はシャワーにする。また、暗い室内でテレビゲームなどをやらない、などに気をつけると良いでしょう。



お風呂に入るときは誰かに声をかける

COLUMN 運転免許

てんかんをもつ方が運転免許を取得・更新するには、適切な治療を続けていることはもちろんですが、運転に支障が生じるおそれのある発作が 2 年間以上ないことなど、クリアすべき事項があり、医師の診断書が必要です。病状が安定し運転免許の取得・更新を考えるとときはまず主治医に相談しましょう。警察の運転適性相談窓口でも相談に乗ってくれます。 参考 日本てんかん協会 <http://www.jea-net.jp/tenkan/menkyo.html>

皆でがん患者さんをサポートしましょう



共和薬品工業株式会社
企画・制作:株式会社パス・コミュニケーションズ